

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273200582
法人名	株式会社 リエイ
事業所名	癒しの浦安ふじみ館 グループホーム
所在地	〒279-0043 千葉県浦安市富士見2-21-36
自己評価作成日	令和3年12月3日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和4年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員皆が入居者様の生活という点を大切にしており、その人らしい生活というものを常に考えながら支援している。
 医療面では看護師が不在ではあるが24時間連絡体制のとれているクリニックにて往診や相談ができるようになっていた。
 その方法も電話連絡だけでなくSNSを活用し、医師や看護師と随時連絡がとれるようになっていた。
 運営推進会議はコロナ禍にて会社方針として集まっての開催は中止。運営状況等は議事録として2か月に1回、ご家族や行政、関連事業所に送付している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

癒しの浦安ふじみ館は、地上3階建ての居宅サービス機能を併せ持った総合介護サービス施設で、2階部分がグループホームとなっている。“人は人によって癒される”“介護を快護へ”の法人が掲げる基本理念のもとに、高齢者のための快適な生活サポート「快護」の提供を目指している。日々のケアにおいては、全職員が癒しと感動が感じられるサービスの提供に取り組んでいる。終末期における支援体制が整備されており、必要機関との連携や看取り支援の実績経験を活かし、入居者や家族から安心して納得が得られるサービスの提供に努めている。施設の情報共有や管理は、パソコンネットワークを活用して行われており、現場職員の業務の負担軽減や合理化を図ると共に、次世代を見据えた就労環境の整備に繋げている。令和2年4月から新型コロナウイルス感染対策の為、外出や面会等は控えているが、人数・時間・場所を限定する等、家族の希望を汲み取りながら実施している。また、「ふじみかん便り」にて、写真や文書で入居者の生活や現況を入居者家族に伝える等、入居者と家族の繋がりが大切になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の方々、地域の方々、職員などで協力しあい、ゆとりある生活を営めるようにカンファレンスなどを通じて理念を共有して実践するよう努めている。	“人は人によって癒される”“介護を快護へ”の法人の基本理念をもとに、高齢者のための快適な生活サポート「快護」の提供を明言している。また、日々のケアにおいては、全職員が癒しと感動が感じられるサービス提供に取り組んでいる。法人の基本方針や施設理念を事業所内に掲示し、内部・外部の人への周知を図っている。新人研修や業務開始時の全職員による唱和の実施等を通じて、周知及び意識浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが、コロナ渦で自治会行事はほぼ中止になっている。コロナが下火になっている今、一部の入居者は近所のコンビニへ職員と買い物に行っている。少しずつだが地域との交流を進める努力をしている。	自治会に加入していると共に、日常の散歩や買い物等を通じて、地域との交流や繋がりを大切にしている。また、専門学生の実習受け入れを行う等、世代間交流に取り組んでいる。令和2年4月から新型コロナウイルス感染対策のため、地域との交流や地域行事への参加は中止している。しかし、散歩や近隣商店への買い物を行う等、入居者と地域の継続的な繋がりは支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は、コロナ渦で会社の方針もあり、集まっての開催は出来ていない。コロナの状況で変わってくるが、再開できるように準備をしていく。見学には、コロナの状況も勘案しながら、認知症に対する相談は、電話でも受けますと伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記の通り、現在までは開催できていない。運営状況等は議事録という形でご家族、行政、関係事業所に送付し、必要に応じてご意見を頂戴している。	令和2年4月から新型コロナウイルス感染対策として、運営推進会議の開催は中止されている。そのため、2カ月に1回、運営推進会議の報告書を構成員に送付し、施設の状況や活動内容を伝えている。構成員である市役所関係・地域包括支援センター・中学校・社会福祉協議会・他のグループホーム施設等の関係者に配布しており、様々な立場の人達からの意見聴衆に努めると共に、挙げた意見を施設運営やサービス向上に活かしている。	

【千葉県】癒しの浦安ふじみ館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査は市役所選任の方が対応されており、調査時には、当館職員からも情報提供に努めている。	令和2年4月から新型コロナウイルス感染対策として、運営推進会議は開催中止となっているが、市への報告書提出により、施設の現状や活動状況は伝えている。市からの伝達や情報共有については、電話・FAX・メールを通して確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に及びそうな対応については、拘束に至らない代替案をフロア会議などを通じて検討している。玄関の施錠は昨今の事件を考え、防犯上必要ととらえている。ただ、内から外へのボタン一つ出られ各フロア入り口には施錠していない。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備し、施設内に掲示すると共に、内部・外部の研修も実施されており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、身体拘束廃止委員会をフロアカンファレンス会議の際に開催しており、身体拘束の無い支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については施設研修の項目に入れ指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様があり、その方の事例を通じて、支援の流れの中で説明し、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時から、看取りやリスク、救急搬送の現状やご家族のご協力の依頼など、要点をご説明とご理解をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を管理者、施設長として職員によせられた声も含めて、適切な対応をこころがけている。成年後見人制度のお客様が増えてきている為、本人の意思を尊重しつつも後見人様の意向も大切にしている。	家族の訪問時・電話連絡・運営推進会議開催時を活用する等、意見や要望を引き出すための機会作りや雰囲気作りに努めている。挙げた意見・要望においては、会議・申し送りノート等にて周知・検討を図り、適切な運営に繋げている。毎月「ふじみかん便り」を入居者家族に郵送しており、写真や文書で入居者の生活や活動状況を伝えている。今年は新型コロナウイルス感染対策の為、家族との面会は、人数・時間・場所を限定して実施し、家族との繋がりを大切にしている。	

【千葉県】癒しの浦安ふじみ館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを通じて、意見交換に努めている。他施設とも同席して行われる業務改善委員会にも参加している。年に2回、その他適宜、個人面談を実施している。	ケアカンファレンスを通して、入居者の支援に関することも含め、職員の意見・要望等を確認している。挙げた意見・要望・情報等は会議にて検討を図り、支援や運営に反映させている。また、年に2回、個人面談を実施しており、職員個々の意向や提案の確認と共に、ケアの実践に活かす機会にもなっており、職員一人ひとりのやりがいに繋げている。IT導入により、記録等はパソコンネットワークを活用して行われており、職員の日常業務の軽減を図っている。また、海外国籍の職員向けの教育対策としてのねらいもあり、今後を視野に入れた就労環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の適正や意欲を踏まえ業務分掌を決定している。リーダー候補研修、社内研修など積極的にすすめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のスキルを踏まえ、安全な介護方法を軸に指導。外部研修の告知などで、職員全員が学ぶ機会を持てるように心がけている。新人職員に対しては、本部の新人研修への参加や“研修日誌”により教育係と新人職員との交流を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浦安市認知症対策三位一体化計画推進事業が開催されている事例検討会に参加している。行政事業の検討会等はコロナ渦にて参加は見送っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者から直接話を聴く機会を作り、求めている事などを引き出し、受け止める努力をしている。言葉に出ない困っている事や関係性も把握できるように努めている。		

【千葉県】癒しの浦安ふじみ館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や困っている事など、できるだけ受け止められるようゆっくり話が聞けるよう来訪していただいたり、入居前に自宅へ訪問するなど、よく聴ける場を設ける努力をしている。ただ、最近では病院から退院、そのまま入居の形が多く、病院への立ち入りは困難になっている。病院、家族との電話やFAX等でのやり取りを密にし、可能な限り関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態や家族の悩みを聞き、場合にに応じたアドバイスやサービス利用についての提案や援助を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的にお互いを頼りにしてできる事(洗濯物たたみ)など利用者と職員で共同で行うこともある。調理、味の確認、配膳等、出来る限り一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者も一緒に、お茶を飲みながらゆっくり話しが出来る場をセッティングし、職員から日常の様子を伝えながら相談をしたりご家族からの提案も頂いている。ご本人が写っている写真を見ながら、その時の様子を伝えるとご家族も喜ばれる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中に故郷の話しを盛り込んで話したりする配慮を行っている。本人が地域や関係性の再確認ができるような支援をしている。	令和2年4月から新型コロナウイルス感染対策の為、家族との面会は時間・人数・場所等の制限を設けて実施している。また、電話・手紙・メール等でのやり取りを推奨する等、関係が途切れないよう支援している。日常的に散歩・近隣商店への買い物・ドライブ等は実施しており、関係継続に配慮した柔軟な対応に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で相談するきっかけを作ったり、食事ができたと声をかけて頂くなど、自然と「ありがとう」と言葉が出る場面作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所を検討される際、ご相談に乗りますのでお気軽に連絡を下さいと伝えている。継続的にお付き合いが出来るように普段から関係を大切にしている。		

【千葉県】癒しの浦安ふじみ館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、ご家族から希望や意向を聞き出す努力をしており、話し合いや連絡を必要に応じて行い不満や不信感を持つことのないよう努めている。確認が困難な場合は本人の思いをおしはかる様に検討している。	入所前に本人や家族から、意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、医療機関や他事業所からの情報収集も行っている。入居後は、家族からの情報提供や日々の生活観察及び会話等から意向や思いを汲み取っている。会議にて職員間で情報や記録を活用し、本人本位の検討や情報共有を図っており、入居者の意向に沿ったサービスの提供に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族からアセスメントで伺った情報だけでなく、普段の会話や面会時の雑談の中からも情報を引き出している。また伺った内容は職員全員が把握できるよう情報共有シート、申し送りなどで伝え共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化や職員の小さな気付きなど、申し送りや情報共有シートなどで職員同士が情報を共有しており、経過を追って把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスにて話し合っている。カンファに参加できない専門職(リハビリの先生や医師など)やご家族へは事前に相談し、意見やアドバイスを頂き、利用者からの日頃の思いも反映されるよう介護計画を作成している。	入居者・家族の意向をもとに、会議にて検討し、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価や見直しを行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。施設の管理・記録・情報共有については、主としてパソコンネットワークを活用して行われており、ペーパーレス化や業務簡素化を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常でケアされている内容をカナミックネットワークのケアウォッチャーに記入し、誰が見ても把握できるように心がけている。また情報ノートへ気づきや工夫を記入し、職員全員が把握、情報交換、意見ができるよう努めており、介護計画の見直しにも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節に合わせたレクリエーションを行っている。フロアやサービスをまたいで柔軟に他職員の協力も得られている。		

【千葉県】癒しの浦安ふじみ館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナにて傾聴ボランティアの面会を中止している。再開になった時には来訪をお願いしていく。ヘアカットは地域の理容室から出張サービスをお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望があれば継続してかかりつけ医へ受診できるよう配慮している。入居後、退院後などかかりつけ医へ受診する事について必ずご家族、施設側、往診の先生と相談し、ご家族の協力を得たり、介護職が付き添うなど柔軟に対応している。	希望するかかりつけ医の受診及び、内科医・歯科医の往診が可能となっている。また、必要に応じて職員が受診に同行しており、医師・家族との連携を含め、適切な医療支援を行っている。協力医療機関とは24時間の協力体制が確保されており、状態変化や緊急時の迅速かつ適切な医療支援に繋げている。併設施設の看護師とは、必要時の医療面の相談や対応が取れるよう連携を図っており、入居者・家族・職員等の不安解消に繋げている。他にも、必要に応じて訪問マッサージも行われており、身体機能の維持及び向上に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の日頃の気づきを連携医療機関の看護師に相談する事で情報共有し、日常の健康管理を行っている。情報を共有している事で往診医の診察にも役立てている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはその方の普段の様子や傾向を看護師に伝え、入院による精神的ダメージを最小限に抑える努力をしている。病院の相談員やご家族と連絡を取り合い、早期退院へ向けた相談、協力を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	すべてのご家族と看取り介護について話し合い、同意書を頂いている。往診時や状態の変化が見られる場合、または変化が予想される時は往診時にご家族に来所してもらい主治医の意見を共に聞き一緒に考える場を設けている。また実際事業所で出来る事、出来ない事などを医師の意見を取り入れてご家族に説明している。	重度化・終末期においては、契約時に施設の方針を説明すると共に、意向の確認や同意も得ている。必要時には、医師・看護師・職員・家族間で話し合いを行う等、現状に即した支援の実施に向け、医療連携体制の強化に取り組んでいる。必要機関との重度化や終末期における連携と共に、施設として、看取り支援の経験を活かし、入居者・家族の意向に添った、入柔軟な支援提供に努めている。	

【千葉県】癒しの浦安ふじみ館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年一回火災訓練を消防署へ依頼し、避難訓練を実施。夜間想定での避難訓練を行う。消防隊員からアドバイスをもらい、半年毎に現場職員のみで避難訓練や通報訓練を行っている。避難所となる堀江中学校と情報交換を行い、協力体制を築いている。(今年度はコロナにて消防署の立ち合いはなし)	火災報知機・スプリンクラー・自動通報機等を設置していると共に、定期的に消防避難訓練を実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、消防署立会いの訓練は実施しておらず、自主訓練を2回実施している。自主訓練では、火災・地震を想定した避難訓練や消火器訓練・通報訓練等を行っており、状況に応じた対応方法を確認している。施設は鉄筋の建物で防火・耐震構造となっており、安心・安全な住居環境となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねるような声かけには介護職員一人ひとりが十分な配慮と理解を持っている。入浴やトイレ誘導では利用者さんの体調、心の状況を考え対応している。	プライバシー保護や接遇に関するマニュアルの整備及び研修を実施し、職員の周知・理解促進を図っている。入居者の希望に応じて、同性介助を実施しており、プライバシーに配慮した適切な支援を行っている。日々の生活の中で、入居者の気持ちに配慮し、自己決定しやすい言葉掛けや支援方法に努める等、理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重しており、意思を表出しにくい方でもできるだけ表しやすいように工夫している。自分から意思を表す事や決める事について職員全体が大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟に対応しており職員側の都合にならない様配慮した声かけを行っている。どうしたいのかを日常生活の会話の中から引き出しあきらめる事なく暮らせるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は選べる方には日常的に選んでもらい、自ら選べない人にはスタッフが好みに合う物を選び、身だしなみの支援をしている。		

【千葉県】癒しの浦安ふじみ館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	新聞の広告を見たり、食事のメニューをみんなで考えたりし献立を決めている。季節に合わせた食材や食べたい物を用意し準備、食事、片付けは日常的に協力しながら一緒に行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けを職員と協同で行っている。その時々に応じて、入居者と職員が相談しながらメニューを決めており、バラティーターに富んだ食事が入居者から好評を得ている。新型コロナウイルス感染拡大に伴い外出が制限されているため、食事イベントの充実を企画・実施しており、施設内で季節や旬を楽しみながら食事できるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた嗜好を把握し、それぞれに応じた対応をしている。食事や水分量の把握は職員間で情報を共有しており、必要があればチェック表を使用している。栄養バランスについて、定期的に栄養士からアドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全介助者は毎食後に行い、自立されている方は声かけ、見守りの支援をしている。口腔内の清潔保持の必要性を職員が理解している。週に一度必要のある方は歯科往診時に先生に口腔内のチェックをしてもらいその方にそった口腔ケアを指導してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツを使用して安眠を促し、日中は下着にパット等を使用し個人に合わせた時間の間隔でさりげなくトイレへ誘導している。	排泄記録を活用し、個々の排泄パターンを把握していると共に、仕草やパターンに応じて、声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。日頃から食事・水分・運動を工夫すると共に、必要に応じて、医師・看護師に相談し、適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳やオリゴ糖など繊維質を含む食事を心掛けており、日々体を動かす機会を作っている。食後にトイレ誘導をし便意を感じられるよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の入浴日や時間は決めておらず、希望に沿った支援を心掛けている。また入浴剤やしょうぶ湯、ゆず湯など季節が楽しめるよう工夫している。	入浴は入居者の希望に応じて、時間や回数等、柔軟に対応しており、本人の意向にそった入浴支援を行っている。必要に応じて、足浴・清拭・シャワー浴・部分浴を実施し、入居者の清潔保持に努めている。また、季節に応じて柚子や菖蒲を活用する等、季節感を取り入れながら、入浴を楽しむことが出来るよう支援している。	

【千葉県】癒しの浦安ふじみ館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを意識しながらもその方の状態や気分により安心して休息したり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個人ファイルに、最新の薬情を入れ、いつでも確認できるようにしている。薬剤変更があった時にはその都度、申し送りフロア全員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ事を理解し日常的に支援している。アセスメントで把握している内容にとどまらず生活の中で日々役割や楽しみを見つけていくよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦にて外出は困難だった。代わりに屋上での外気浴や室内でも動画やYouTube活用し、少しでも外出気分を味わったり、気分転換できるように心掛けている。	入居者の希望・体調・天気等に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われている。また、定期的に外出行事を企画・実践しており、外出がより楽しめるよう取り組んでいる。令和2年4月から新型コロナウイルス感染対策の為、併設のデイサービスとの交流は禁止している。また、内容や人数に配慮しながら、散歩・買い物・ドライブ等を実施している。外出頻度が少なくなったため、室内レクリエーションの充実を図り、入居者の生活の活性化に繋げている。他にも、屋上では、ガーデニング・外気浴等、様々な戸外活動が行われており、入居者や職員の癒しの場として活用されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名ではあるが一人一人の希望や力に応じて、金額は違うがそれぞれにお金を所持している。ご自身でお金を管理している方には、買い物の際に何か買っておかないか確認したり使い過ぎがないよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って電話できる時間やご家族のご希望に沿って電話で話す機会を作っている。本人宛の手紙を届けたり、職員が手伝いながらご家族や知人などに手紙を出す事もある。		

【千葉県】癒しの浦安ふじみ館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り(正月、クリスマス)や、時より食堂のテーブルに置く作品などを玄関やホール、洗面所などに配置し、一緒に見て安らげる空間をつくっている。利用者さんが好む音楽をかける事もある。	施設内はバリアフリー環境が整っており、十分な介助スペースが確保されている。また、エレベーターが設置され、入居者の身体状況や安全面に配慮した設備環境が整備されており、入居者・家族の安心と自由な生活に繋がっている。施設の共有スペースには、椅子・テーブル・ベンチ等が備えられており、自由にくつろげる環境が整っている。施設内には、季節の飾り付け・入居者による作品・行事や外出時の写真等が掲載されており、楽しい雰囲気作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで一人のんびりとテレビを見る方や、慣れたテーブル席で他の方と談笑したり、屋上で過ごすなど、その時の気分に合わせて居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持ち込みで使用していただき、タンスの中身などもご本人の使いやすい配置にし、居心地良く過ごせるように配慮している。	希望に応じて、馴染みの物を自由に持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できる様配慮している。また、テレビやポータブルトイレの設置も可能となっており、生活歴や身体状況に合わせた居室作りを行っている。各居室に鍵や収納スペースを設置する等、プライバシー確保を意識した環境作りを行うと共に、洗面台・エアコンも備え、利便性に優れ、快適な生活に配慮した設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全は第一に考えつつ一人ひとりの「できる事」「分かる事」を奪ってしまわないようにご本人の力を活かし、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		